



# 学校便り 琢磨

第12号 R2.7.7 三豊市立詫間小学校

## 写真で語る「詫間小学校」



ビフォー（4月）



アフター（7月）

ここが、どこなのか分かりますか？ここは、小学校と幼稚園の間の水路です。ある先輩校長からこう言われました。「赴任した学校の周りをまず歩いてみなさい。その中で一番、手を入れていない場所を、整備するのが新しく赴任した校長の最初の仕事です。」その言葉どおりしてみました。土、日だけの作業で、約3か月もかかってしまいましたけど…。

先週の1週間は、「あいさつがんばり週間」でした。「あいさつビンゴカード」も配り、生活委員さんの朝のあいさつ運動もあって、詫間小学校には、元気で気持ちの良いあいさつが飛び交いました。

しかし、忘れないでほしいことがあります。児童会役員の皆さんは、毎週3回、朝のあいさつ運動を、ずっと続けてくれていますよ。これからも、しっかり「あいさつのできる詫間小」にするために。感謝です！



7月1日（水）。6年梅組で国語の研究授業が行われました。難しい説明文を、文章の組み立てに着目して、筆者の伝えたいことや相手を考えていくという授業でした。昨年度、国語の四国大会を開催した詫間小学校です。今年度の最上級生が、その力を見事に発揮してくれました。発表も、ノートも素晴らしかったです。



その他、こんなこともしました！



← ビフォー

アフター →  
(運動場門の表示)





駅の生け花 — 美しい所に 人は決してゴミを投げ捨てない —

左の写真に写っているのは、JR高瀬駅の改札口を出た所にあるガラスのケースの中の「生け花」です。この生け花は、造花（作り物の花）ではありません。それなのに、年中、この写真のようにケースの中で美しく咲いています。365日、いつ見ても、とても美しいのです。

駅員さんが花を生けているのでしょうか？もし、駅員さんでないとしたら、誰が、いつこの花を生けているのでしょうか？

私は、3年間、高松へ電車通勤したことがあります。この花を毎日、毎日、見ながら、こんなことを考えていました。（今から10年以上前の事です。）

ある日。私は、いつものように電車で高瀬駅まで帰ってきました。ところが、高瀬駅に着く少し前に、急に大粒の雨が降り始め、駅に着くころには、バケツの水をひっくり返す程の豪雨になっていました。「天気予報では、雨は降らないと言っていたから、かさも持ってない。どうやって家まで帰ろうか。」と、困惑しながら改札口を出たところ、そこに妻と小学校3年生の娘が待っていました。

「お父さん。迎えに来てあげたで。優しいお母さんと私に感謝しなよ。」と、娘は言いましたが、娘は、私の背後にある「生け花」の方を見ていました。「きれいな花やなあ。駅員さんが、生けとんかなあ？」と娘。「なかなかええ所に気が付いたなあ。そうなんよ。この生け花、年中、このようにきれいなんよ。」と私。「で、誰が手入れしとん？」と娘。「それが、知らんのよ。でも、枯れた葉っぱ一枚も見ることがないで。」と私。「知らんのかい。」と娘。「そうや、明日は休みやから、一緒に駅に来て、駅員さんに聞いてみよう。」と私。実は、高瀬駅は、駅員さんが、朝から夕方までしかいない駅なのです。

というわけで、あまり乗り気のしない娘を連れて、翌日の朝、私は高瀬駅に向かいました。

娘が、駅員さんに「あの花は、誰が生けているのですか？」と、たずねたら、駅員さんは、「ああ、あの花ね。あれは、駅の近所の人がお世話してくださっていますよ。ちょうど、今、その方が、花壇の手入れをしていますよ。」と教えてくださいました。

私たちは、駅の駐車場の花壇の方へ行きました。そこには、一人のおばあさんが、暑い中、一生懸命に花壇の手入れをされていました。娘が「あのう、すいません。改札口のところの花は、おばあさんが生けているのですか？」と聞きますと、おばあさんは、「おじょうちゃん、気が付いてくれてありがとう。そうですよ。私たち、駅の近所の人ボランティアでしていますよ。」と教えてくださいました。

そして、なぜ、駅に花を生けるようになったのかについても、詳しく教えてくださいました。

今から30年くらい前、高瀬駅はとても汚れていました。花壇は、草がぼうぼうで、その周りに駅を利用する人が、たばこの吸いがらやゴミを平気で捨てていきました。電車を降りた高校生たちは、そのゴミを踏みつけて歩いていました。駅のホームも、階段も同じでした。ゴミだけを片付けても、すぐにゴミでいっぱいになってしまいます。このままでは、子どもたちの心が荒れてしまう、何とかしなくては。そう考えた駅の近所に住む私たちは、掃除をして花壇に花を植え、そして改札口のところに、生け花を置くことにしました。すると、花壇の周りにゴミを捨てる人は、ほとんどいなくなりました。そのうち、ホームや階段にもゴミはあまり見られなくなりました。それから、私たちは、交代で、ずっと駅の花壇や生け花のお世話をしているのです。大したことはできませんので、ちょっとしたことを続けているだけです。人は、美しい所に、決してゴミを捨てたりしませんから。

この話を聞いて、娘は「おばあちゃん、ありがとうございます。」と、大きな声で言いました。私も、とても大切なことを教えていただいたと、娘と一緒に深く頭を下げました。私が、学校の環境整備をするのは、実は、このおばあさんの言葉に深い感銘を受けたことがきっかけなのです。

実は、この話には続きがあります。この話を聞いたのが夏休み前のことでした。夏休みになって、私と娘は、再び高瀬駅を訪れることになります。その話は、次回の「真鍋校長の独り言」でご紹介します。